グループ会社6社目 株式会社むつニューバッテリー

今年の4月、グループ6社目となる「株式会社むつニューバッテリー」を創業しました。故郷である青森県むつ市に工場を建設し、蓄電池の製造を目指す新たな事業です。十数年前から漠然と抱いていた故郷へ恩返しがしたいという想いが、不思議なご縁によって形になり始めました。今回は、新会社設立に至った経緯と、故郷への想いについてお伝えします。



青森県むつ市に生まれ、18歳で上京して以来、毎年帰省していますが、帰るたびに故郷の活気が失われつつあることを感じています。かつての人口は約7万人でしたが、現在では5万人ほどです。下北半島には大間のマグロや原子力関連施設などがありますが、目立った産業は少なく、地域全体が寂しくなっている印象は否めません。いつか生まれ故郷に恩返しがしたいと、十数年前から漠然と考えていました。

そんな中、私の心を大きく動かす出来事がありました。かつて最大約千人もの雇用を支えていたストッキング製造工場「アツギ東北株式会社　むつ事業所」の閉鎖です。従業員500名もの方が職を失うというニュースを聞き「何とか力になれないものか」と、周囲に話すようになりました。

昨年11月、むつロータリークラブの65周年記念式典の講演の講師としてお招きいただいた際、懇親会で山本知也市長と隣の席になりました。そこで伺った話に衝撃を受けました。近年、むつ市で生まれる子どもは年間200人前後だというのです。私の同級生は2千人前後いた記憶がありますから、開いた口が塞がりませんでした。これほどまでに子どもが減っている理由を尋ねると、安定した雇用や十分な収入を得られる仕事が少なく、若者が青森市や仙台、東京へ出ていってしまうとのことでした。

私は市長に「むつ市に雇用を生み出す事業をやりたい」とお伝えしました。市長からも、ぜひお願いしたいというお言葉をいただきました。しかし、その時点では具体的な事業の構想はありませんでした。

ところが、人生とは不思議なものです。それからわずか2カ月ほど経った頃、知人から新しい蓄電池事業の話をいただいたのです。それはPGA（ポリグリコール酸）を活用した固体電池の技術で、従来のリチウムイオン電池と比べ、安全性やコスト面で大きな可能性を秘めたものでした。この技術を持つ企業と提携し、むつ市に工場を建設して、全国へ蓄電池を供給するという構想が生まれました。もちろん、新規事業ですから収益性や技術面など、乗り越えなければならない課題は山ほどあります。しかし、私がこの事業に挑戦する最大の理由は、莫大な利益をあげることではありません。故郷に安定した雇用を生み出し、若者が安心して働き、家庭を築ける街にしたい。その一心です。

「縁尋機妙多逢聖因（えんじんきみょうたほうしょういん）」。良いご縁がさらに良いご縁を生み、素晴らしい結果につながっていくという意味です。十数年前には漠然とした想いでしかありませんでしたが、工場閉鎖のニュース、市長との出会い、そして蓄電池事業とのご縁によって、具体的な挑戦へと変わっていきました。

ご縁とは、何もせず待っていれば訪れるものではありません。強い想いを持ち、それを周囲に伝え、行動し続けることで、思いもよらない道が開けるのではないでしょうか。2028年までに工場を稼働させ、むつ市から全国へ新しい蓄電池を広めていきたいと考えています。まだまだこれからが本当の勝負です。いただいたご縁を生かし、むつ市のため、青森県のため、そして日本のために、全力で挑戦していきます。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長
MURODATE Isao **室舘 勲**

2003年に株式会社キャリアコンサルティングを設立。全国で若者の育成に取り組む。千葉県教頭会第1ブロック研究大会、むつロータリークラブ創立65周年式典など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパンの講師・審査員。著書に『夢を見て 夢を叶えて 夢になる』（致知出版社）、『まずは上司を勝たせなさい』（講談社）、『「応援される人」になりなさい』（ワック）、『入社1年目から仕事が面白くなる本』（致知出版社）がある。

むつニューバッテリー　ブログ　Instagram